



# 富山大学学報

昭和32. 9. 1

第 11 号

## 目 次

関係法令	法律, 政令, 省令, 官庁報告, 規則, 告示, 地方自治事項, 訓令……………	1	
学内規程	文理学部規程の一部改正……………	2	
	教育学部規程の一部改正……………	3	
	工学部規程の一部改正……………	3	
	事務組織規程の一部改正……………	3	
	附属図書館商議会規程の一部改正……	4	
	学部図書委員会規程の一部改正……	4	
	富山大学原子力同位元素委員会規程…	4	
	人 事 異 動……………	4	
	学内情報	昭和32年度文部省内地研究員決定……	11
		昭和32年度科学研究費等の採択決定…	11
昭和32年度科学教育研究室の開設……		11	
図書寄贈者に紺綬褒賞授与……………		13	
黒田講堂新営工事概況及び正門新営工事……………		13	
海外出張中の佐口助教授の帰還……		13	
昭和32年度卒業生就職状況……………		13	
第9回北陸三大学綜合体育大会……		13	
富山大学第3回大学祭……………		14	
レクリエーション便り……………		14	
部局情報			
文理学部	立山研究室の開室……………	15	
	文理学部教官の学位取得……………	15	
	ドイツの大学(佐口透)……………	15	
経済学部(図書館)			
	経済学部及び附属図書館の校舎竣工…	16	
主要日記……………		16	

## 関 係 法 令

### 法 律

法律第27号	所得税法の一部を改正する法律	32. 3.31官報
法律第31号	国立学校設置法の一部を改正する法律	32. 3.31官報

法律第63号	結核予防法の一部を改正する法律	32. 4.15官報
法律第74号	国家公務員等退職手当暫定措置法等の一部を改正する法律	32. 4.20官報
法律第117号	国立及公立の学校の事務職員の休職の特例に関する法律	32. 5.20官報
法律第144号	教育職員免許法施行法の一部を改正する法律	32. 5.31官報
法律第149号	学校教育法の一部を改正する法律	32. 6. 1官報
法律第153号	特別職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律	32. 6. 1官報
法律第154号	一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律	32. 6. 1官報
政 令		
政令第28号	予算, 決算, 及会計令の一部を改正する政令	32. 3.26官報
政令第44号	所得税法施行規則の一部を改正する政令	32. 3.31官報
政令第60号	国立学校設置法施行令の一部を改正する政令	32. 4.10官報
政令第63号	国立学校の授業料債権等に係る納入の告知の特例に関する政令	32. 6.11官報
政令第121号	国有財産法施行令の一部を改正する政令	32. 5.31官報
政令第123号	学校教育法施行令の一部を改正する政令	32. 6. 1官報
政令第125号	国家公務員等退職手当暫定措置法施行令の一部を改正する政令	32. 6. 1官報
政令第126号	国家公務員等退職手当暫定措置法等の一部を改正する法律附則第二項の規定により退職手当の支給を受ける職員の範囲等を定める政令	32. 6. 1官報
省 令		
大蔵省令第16号	所得税法施行細則の一部を改正する省令	32. 3.31官報
文部省令第3号	文部省設置法施行規則の一部を改正する省令	32. 3.31官報
文部省令第4号	文部省職員定数規程の一部を改正する省令	32. 3.31官報
文部省令第5号	国立大学の講座に関する省令の一部を改正する省令	32. 3.31官報
文部省令第7号	国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令	32. 4.16官報
文部省令第10号	学校給食法施行規則の一部を改正する省令	32. 5. 8官報
文部省令第11号	学校給食調査規則の一部を改正する省令	32. 5.13官報

大蔵省令第46号 国家公務員等の旅費支給規程の一部を  
改正する省令 32. 6. 1官報  
文部省令第13号 理科教育振興法施行規則の一部を改正  
する省令 32. 6.12官報

官庁報告

昭和31年度 6 級職国家公務員特別採用試験合格者  
32. 3.30官報

規 則

人事院 1- 4 現行の法律，命令及び規則の廃止一部を  
改正する規則 32. 4.27官報  
人事院10- 4 職員の保健及安全保持（32.5.1施行）  
32. 4.27官報  
会計検査院第 3 号 計算証明規則の一部を改正する規則  
32. 5.14官報  
人事院 9-11 勤務地手当の支給地域の区分に関する官  
署の指定の一部を改正する規則 32. 5.17官報  
人事院 9-17 俸給の特別調整額の一部を改正する規則  
32. 5.17官報  
人事院 1- 4 現行の法律，命令及び規則廃止の一部を  
改正する規則 32. 6. 1官報  
人事院 9- 5 給与簿の一部を改正する規則 “  
人事院 9- 6 俸給調整額の一部を改正する規則  
32. 6. 1官報  
人事院 9- 7 俸給等の支給の一部を改正する規則  
32. 6. 1官報  
人事院 9- 8 初任給，昇格，昇給等の基準の全部を改  
正する規則 32. 6. 1官報  
人事院 9-13 休職者の給与の一部を改正する規則  
32. 6. 1官報  
人事院 9-14 俸給月額の前払の一部を改正する規  
則 32. 6. 1官報  
人事院 9-22 暫定手当 32. 6. 1官報  
人事院12- 0 職員の懲戒の一部を改正する規則  
32. 6. 1官報  
人事院16- 0 職員の災害補償の一部を改正する規則  
32. 6. 1官報

告 示

科学技術庁第 4 号 アイソトープの使用確認の申請手続  
を定める件 32. 5. 8官報  
文部省第82号 昭和32年度大学入学資格検定の施行期  
日，場所及び出願の期限を定める件の一部を改正す  
る件 32. 6. 7官報

地方自治事項

富山県条例第12号 富山県押売等防止条例 32.4.6官報

訓 令

文部省第 1 号 学校基本調査実施要領等の一部を改正す  
る訓令 32. 2.18官報  
文部省第 2 号 昭和32年における定期評定の実施の時期

の特例を定める件 32. 5.16官報

~~~~~  
学 内 規 程  
~~~~~

文理学部規程の一部改正

文理学部規程の一部を次のとおり改正する。付表中文学  
科，国文学及び中国文学，理学科数学，物理学，化学及び  
生物学の各専攻課程の学科目単位表を別表のとおり改め  
る。

付 則

本規程は昭和32年 4 月 1 日から施行する。但し昭和30年  
度以前の入学生には従前の規定を適用する。理学科数学専  
攻課程に限り，昭和28年度以前の入学生は従前の規定によ  
る。

別表 (改正部分の抜萃)

	専 攻 科 目	関 連 科 目		
国 文 学 及 び 中 国 文 学 専 攻 課 程		○選択科目 このうち次の科目を加える。 英語学講義 12単位 英語講読 20 “ ドイツ語学講義 12 “ ドイツ語学講読 6 “ フランス語講読 2 “ 考古学及び民族学 2 “		
	数 学 専 攻 課 程	○選択科目 このうち次の科目を加える。 代数学特論 4 単位 幾何学特論 4 “ 解析学特論 4 “ 位相数学 4 “ 数理統計学 4 “	関連科目を次の通り改める。 必修科目を削除する。 ○選択科目 8 単位 次の科目のうちから選択する。 但し専攻科目のうちからも 選択することができる。 一般力学 4 単位 連続体の力学 4 “ 物理数学 3 “ 物理学概論 4 “ 統計学 2 “	
		計 49単位	計 8 単位	
		物 理 学 専 攻 課 程	専攻科目を次の通り改める。 ○必修科目 38単位 物理学概論 4 “ 一般力学 4 “ 連続体の力学 4(2) “ 物理数学 3 “	○選択科目 この総単位数を 3 から 2 に改める。 計 14単位 △ 光 学 2 “ △ 電磁気学 4(2) “

専攻科目		関連科目	
物理学専攻課程	量子論	2 "	△
	物理学演習	3 "	熱力学 2 "
	物理実験学	2 "	統計力学 2 "
	物理学実験	6 "	相対論 2 "
	特別理論考究又は実験のうちいづれか1科目	8 単位	固体論 2 "
			素粒子論 2 "
	○選択科目	8 "	原子核物理学 2 "
	次の科目のうちから選択する。		X線及び電子廻析 2 "
	但し、関連科目の選択科目のうちからも選択することが出来る。		航空力学 2 "
			機器設計 2 "
			応用物理学 2 "
			電波物理学 2 "
			物理学特別講義
	論文講読	2 単位	計 46単位
合計	△	68単位	
備考 ( ) 内は最近必修単位数を示す			
専攻科目		関連科目	
化学専攻課程	○必修科目		△
	このうちから		
	化学実験法	2 単位	を削除し、
	を削除し、		次の諸科目を加える。
	演習 2 単位を 4 単位とする。		放射化学 2 単位
○選択科目		界面化学 2 "	
このうちから		触媒化学 2 "	
物理化学特論	4 単位	無機化学工業 2 "	
	△	有機化学工業 2 "	
生物学専攻課程	○必修科目		△
	この総単位数を46から38に改める。		次の科目のうちから選択する。
	そしてこのうちから、		但し動物生理学並に同実験
	動物生理学	4 単位	または植物生理学並に同実験
	植物生理学	6(4) "	験は何れか一つを必修選択
	動物生理学実験	6(4) "	とする。
	植物生理学実験	4(2) "	生物学概論 4 単位
	を削除し、		動物生理学 6 "
	次の諸科目を加える。		植物生理学 6 "
	生態学	4(2) 単位	微生物学 2 "
	実態形態学	4(2) "	応用生物学 4 "
	生態学実験	4(2) "	動物生理学実験 6 "
	実験形態学実験	4(2) "	植物生理学実験 6 "
	○選択科目		微生物学実験 2 "
これを次の通り改める。		応用生物学実験 2 "	
○選択科目	16 単位	計 54単位	
合計	△	78単位	
備考 ( ) 内は最低必修単位数を示す。			

### 教育学部規程の一部改正

教育学部規程の一部を次のように改める。

- 第7条中「12単位以上」を「16単位以上」に、「4単  
位以上」を「6単位以上」に改める。
- 別表中

外国語	英語	6	6	4	4
	ドイツ語	6	6		
	計	12	12	4	4

を

外国語	英語	8	8	4	4
	ドイツ語	8	8	2	2
	計	16	16	6	6

に改める。

付則の次に、次の付則を加える。

この規程は、昭和32年4月1日から実施する。但し、昭和31年度以前に入学した学生については、従前の規程による。

### 工学部規程の一部改正

工学部規程の一部を次のように改める。

- 別表 金属工学科中  
専攻科目における「金属工学概論 3」の次に、「理論  
冶金学 2」を、「非鉄冶金学第二 2」の次に、「非鉄  
冶金学第三 2」を加える。  
関連科目における「酸、アルカリ肥料化学 2」の次に  
「応用物理学 2」を加える。

- 別表 機械工学科中  
関連科目における「自動制御 2」を「自動制御 3」に  
改める。

付則の次に、次の付則を加える。

この規程は、昭和32年4月1日から実施する。

### 事務組織規程の一部改正

事務組織規程の一部を次のように改める。

第6条中第7項、第11項及第12項を削除する。従つて同条の第8項以下第10項までを1數位づつ繰り上げる。また第13項以下は3數位づつ繰り上げる。

第6条から削除した第7項及び第11項を第5条の夫々第3項及び第8項として加える。従つて同条の第3項から第6項までを1數位づつ繰り下げる。また第6条から削除した第12項を第4条の第13項として加える。従つて同条の第13項以下は1數位づつ繰り下げる。

第24条中「図書館事務部に庶務係、司書係をおく」を「図書館事務部に総務係、整理係並びに閲覧係をおく」に改

める。  
付則の次に、次の付則を加える。  
本規程は、昭和32年4月1日からこれを実施する。

**附属図書館商議会規程の一部改正**

附属図書館商議会規程の一部を次のように改める。

第3条第2号中

各学部分館長(文理学部の次に教育学部)を加える。

第3条第3号中

各学部図書委員会委員長(文理学部の次に教育学部)を加える。

第7条中

議事のでん末は附属図書館庶務係長を総務係長に改める。(昭和32年4月1日改正)

**学部図書委員会規程の一部改正**

学部図書委員会規程の一部を次のように改める。

第3条第2号中

学部分館長(文理長部の次に教育学部)を加える。(昭和32年4月1日改正)

**富山大学原子力同位元素委員会規程**

(名称)

第1条 本委員会(以下本会という。)は富山大学原子力同

位元素委員会という。

(目的)

第2条 本会は原子力及び同位元素の研究利用を行うことを目的とし、これに関する学内相互の連絡調整を図るものとする。

(構成)

第3条 本会は次の職員で構成する。

1. 学 長
2. 各学部より選出された委員各2名
3. 事務局長

第4条 本会に委員長をおく。委員長は学長がこれに当る。

(任期)

第5条 第3条2の構成員の任期は2ケ年とする。

(議事)

第6条 本会は必要に応じて委員長がこれを招集し、その議長となる。

委員長が事故あるときは委員長の指名するものがこれに代る。

委員に事故あるときは代理者を委員と見做す。

付 則

本規程は昭和32年5月11日から実施する。

人 事 異 動

官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	手 崎 政 男	文部教官(富山大学助教授 文理学部)に採用する	4. 1
	吉 原 節 夫	文部教官(富山大学助手 経済学部)に採用する	"
	飯 原 慶 雄	"	"
	古 谷 嘉 志	文部教官(富山大学助手 工学部)に採用する	5. 1
	葉 山 益 次 郎	文部教官(富山大学講師 工学部)に採用する	5. 16
	宮 下 春 男	雇(工学部)に採用する	3. 18
	河 原 健 三	臨時筆生(文理学部)に採用する	4. 1
	後 藤 年 生	臨時筆生(附属図書館)に採用する	"
	平 野 茂 良	臨時筆生(経済学部)に採用する	4. 13
	館 盛 貞 信	作業員(経済学部)に採用する	"
	本 田 陸 子	臨時筆生(薬学部)に採用する	5. 1
	種 節 子	作業員(文理学部 看護婦)に採用する	6. 16
雇(教育学部)	牛 島 ア ヤ	療養を命ずる 療養の期間は昭和32年10月21日までとする	4. 22
雇(文理学部)	川 原 越 雄	休職の期間を昭和32年9月8日まで更新する	3. 9
雇(薬学部)	藤 田 梅 次 郎	国家公務員法第79条第1号の規定により休職にする 休職の期間は昭和32年10月7日までとする	4. 8

雇 (会計課)	今井一子	国家公務員法第79条第1号の規定により休職にする 休職の期間は昭和32年11月7日までとする	5. 8
雇 (薬学部)	川又忠次郎	復職した	3. 30
備人 (薬学部)	川又君子	辞職を承認する	3. 29
雇 (会計課)	永代邦子	"	5. 31
文部教官 (富山大学助手 文理学部)	山田昇	"	6. 20
文部教官 (富山大学教授 文理学部)	宗像健一	"	5. 5
備人 (薬学部)	永原与朔	"	6. 27
文部技官 (高知大学 施設課長)	山田啓祐	富山大学施設課長に配置換する	3. 1
文部事務官 (富山大学 事務局長)	吉田勇	富山大学施設課長事務取扱を免ずる	"
文部教官 (富山大学助手 経済学部)	淡路憲治	富山大学講師 (経済学部) に昇任させる	4. 1
"	横山静祺	"	"
文部教官 (富山大学講師 経済学部)	柴田裕	富山大学助教授 (経済学部) に昇任させる	"
文部教官 (金沢大学講師 工学部)	宮尾嘉寿	富山大学助教授 (工学部) に昇任させる	5. 16
文部教官 (富山大学講師 工学部)	佐藤恒義	富山大学教授 (工学部) に昇任させる	"
文部教官 (富山大学助手 経済学部)	竹林信一	和歌山大学経済短期大学部に出向させる	4. 1
文部教官 (富山大学助教授 文理学部)	中塩清之助	北海道学芸大学助教授 (岩見沢分校) へ配置換する	6. 1
備人 (施設課 作業員)	奥田真一	雇 (施設課) に配置換する	3. 16
備人 (文理学部 警務員)	蔵北博	雇 (文理学部) に配置換する	"
備人 (工学部 警務員)	高岡博	雇 (工学部) に配置換する	"
備人 (附属図書館 警務員)	松下甚清	雇 (附属図書館) に配置換する	"
臨時筆生 (工学部)	本沢健二	作業員 (工学部) に配置換する	3. 25
作業員 (薬学部)	田中秀二	備人 (薬学部作業員) に配置換する	4. 8
雇 (工学部)	原泰熊	警務員 (工学部) に配置換する	4. 16
備人 (薬学部)	野島富美子	雇 (薬学部) に配置換する	5. 16
作業員 (工学部)	本沢健二	備人 (工学部 作業員) に配置換する	6. 16
文部事務官 (附属図書館 庶務係長)	船見幸生	附属図書館総務係長に配置換する	4. 1
文部事務官 (附属図書館 司書係長)	多賀政信	附属図書館整理係長に配置換する	"
文部事務官 (附属図書館 教育学部分館 事務主任)	田中栄吉	附属図書館閲覧係長に配置換する	"
備人 (文理学部)	広木順則	経済学部に配置換する	4. 1
作業員 (文理学部)	山本侑子	経済学部に配置換する	"
雇 (経済学部)	斉藤茂男	文理学部に配置換する	"
備人 (経済学部)	山村正之助	文理学部に配置換する	"
文部事務官 (庶務課 能率係長)	黒田信吉	補導課補導係長に配置換する	5. 1
文部事務官 (会計課 司計係長)	数見宇佐男	経済学都会計係長に配置換する	"
文部事務官 (会計課 出納係長)	島田利雄	会計課司計係長に配置換する	"
文部事務官 (補導課 補導係長)	林友太郎	雇 (経済学部) に配置換する	"

文 部 事 務 官 (厚生課 厚生係長)	吉 田 徳 正	附属図書館総務係長に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (厚生課 保健係長)	小 竹 雀 雄	厚生課厚生係長に配置換する	〃
雇 (庶務課 タイピスト)	多 村 節 子	文理学部 (タイピスト) に配置換する	〃
雇 (庶務課)	荒 川 澄 子	文理学部に配置換する	〃
雇 (庶務課)	中 村 恵 二	教育学部に配置換する	〃
傭人 (庶務課 電話交換手)	高 安 芳 枝	教育学部 (電話交換手) に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (庶務課)	松 原 安 太 郎	会計課に配置換する	〃
雇 (補導課)	石 黒 勝 夫	会計課に配置換する	〃
臨時筆生 (厚生課)	宮 越 一 男	薬学部に配置換する	〃
雇 (会計課)	高 松 正 雄	教育学部に配置換する	〃
作業員 (会計課)	森 田 は る	庶務課に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (文理学部 庶務係長)	松 永 泰 三	雇 (庶務課) に配置換する	〃
雇 (文理学部)	城 川 久 美 子	庶務課に配置換する	〃
傭人 (文理学部 タイピスト)	森 田 美 喜 子	庶務課 (タイピスト) に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (文理学部)	塩 谷 孝 雄	補導課に配置換する	〃
雇 (文理学部)	藤 井 政 雄	厚生課に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (教育学部 庶務係長)	洲 崎 茂	庶務課能率係長に配置換する	〃
雇 (教育学部)	島 田 幾 久 栄	庶務課に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (教育学部)	谷 岡 静 雄	教育学部庶務係長に昇任させる	〃
文 部 事 務 官 (教育学部)	奥 井 三 郎	会計課出納係長心得を命ずる	5. 1
傭人 (教育学部 電話交換手)	石 金 庸 子	雇 (経済学部) に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (経済学部 会計係長)	安 守 数 雄	厚生課保健係長に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (経済学部)	奥 野 武 則	文理学部に配置換する	〃
雇 (経済学部)	中 林 邦 夫	附属図書館に配置換する	〃
雇 (薬学部)	中 島 菊 枝	庶務課に配置換する	〃
臨時筆生 (薬学部)	石 黒 寿 子	会計課に配置換する	〃
雇 (附属図書館)	太 田 貞 子	文理学部に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (附属図書館 総務係長)	船 見 幸 生	附属図書館閲覧係長に配置換する	〃
文 部 事 務 官 (附属図書館 閲覧係長)	田 中 栄 吉	文理学部庶務係長に配置換する	〃
雇 (文理学部)	太 田 貞 子	附属図書館に配置換する	6. 14
雇 (附属図書館)	高 杉 正 範	会計課に配置換する	〃
作業員 (庶務課)	森 田 は る	工学部に配置換する	6. 16
文 部 教 官 (富山大学助教授 薬学部)	山 崎 高 応	昭和32年度文部省内地研究員を命ずる	5. 10
文 部 教 官 (富山大学助教授 経済学部)	石 瀬 秀 治	富山大学補導協議会委員を免ずる	4. 15
〃	田 中 文 信	富山大学補導協議会委員を命ずる 任期は昭和32年7月31日までとする	〃
〃	柴 田 裕	富山大学文化部会委員を命ずる 任期は昭和32年7月31日までとする	〃

文部教官 (富山大学教授 経済学部)	武石 勉	富山大学体育部会委員を免ずる	〃
文部教官 (富山大学助教授 経済学部)	菅原 修	富山大学体育部会委員を命ずる 任期は昭和32年7月31日までとする	〃
文部教官 (富山大学教授 経済学部)	小寺 廉吉	富山大学認定講習委員会委員を命ずる 任期は昭和34年4月15日までとする	4. 16
文部教官 (富山大学助教授 経済学部)	菅原 修	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 経済学部)	渡植 彦太郎	富山大学一般教育委員会委員を命ずる 任期は昭和34年4月15日までとする	4. 16
〃	三国 一義	〃	〃
文部教官 (富山大学長)	石原 寅次郎	昭和32年度富山大学科学教育研究室室長を命ずる 任期は昭和32年12月15日までとする	5. 16
文部教官 (富山大学 学生部長)	岡本 基	昭和32年度富山大学科学教育研究室主事を命ずる 任期は昭和32年12月15日までとする	〃
文部教官 (富山大学教授 文理学部)	高瀬 重雄	昭和32年度富山大学科学教育研究室指導員を命ずる 任期は昭和32年12月15日までとする	〃
〃	福井 憲二	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 教育学部)	山本 健膺	〃	〃
〃	蜷川 栄作	〃	〃
文部教官 (富山大学助教授 教育学部)	高野 兼吉	〃	〃
〃	山淵 利文	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 経済学部)	小寺 廉吉	〃	〃
〃	城宝 正治	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 文理学部)	竹内 豊三郎	富山大学原子力同位元素委員会委員を命ずる 任期は昭和34年5月10日までとする	5. 11
文部教官 (富山大学助教授 文理学部)	小林 貞作	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 教育学部)	山本 健膺	〃	〃
文部教官 (富山大学助教授 教育学部)	高森 乙松	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 経済学部)	武石 勉	〃	〃
文部教官 (富山大学助教授 経済学部)	田中文 信	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 薬学部)	長谷 純一	〃	〃
文部教官 (富山大学助教授 薬学部)	北川 晴雄	〃	〃
文部教官 (富山大学教授 工学部)	浅岡 忠知	〃	〃
〃	森棟 隆弘	〃	〃
医員(富山大学 文理学部)	酒井 義昭	任用を更新する 任期は昭和33年3月31日までとする	4. 1
〃	福田 博	〃	〃
医員(富山大学 教育学部)	福田 美明	〃	〃
〃	草島 孫三	〃	〃
〃	小林 金次	〃	〃
医員(富山大学 経済学部)	内田 重遠	〃	5. 1
医員(富山大学 薬学部)	米村 長敏	〃	4. 1
医員(富山大学 工学部)	松田 三知	〃	〃
医員(富山大学 薬学部)	米村 長敏	医員(富山大学学生部)に併任する 任期は昭和33年3月31日までとする	〃
〃	改井 四郎	診療X線技師(富山大学学生部)に採用する 任期は昭和33年3月31日までとする	4. 1

“	高 野 嘉 一	技術補佐員（富山大学薬学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	“
文 部 教 官 （富山大学教授 経済学部）	土 生 滋 穂	富山大学経済学部長に併任する 任期は昭和34年 3月31日までとする	4. 1
“	土 生 滋 穂	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年 3月 1日までとする	“
“	渡 植 彦 太 郎	富山大学経済学部長の併任を解除する	“
“	渡 植 彦 太 郎	富山大学評議員の併任を解除する	“
文 部 教 官 （富山大学教授 教育学部）	渡 辺 重 雄	富山大学教育学部長に併任する 任期は昭和34年 5月31日までとする	6. 1
“	渡 辺 重 雄	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年 5月31日までとする	“
文 部 教 官 （富山大学助教授 教育学部）	神 保 放 牛	富山大学附属図書館教育学部分館長の併任は終了した	4. 1
文 部 教 官 （富山大学教授 文理学部）	高 瀬 重 雄	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年 5月31日までとする	6. 1
“	福 井 憲 二	“	“
文 部 教 官 （富山大学教授 教育学部）	佐 々 亮	“	“
“	山 本 健 磨	“	“
文 部 教 官 （富山大学教授 薬学部）	中 沖 太 七 郎	“	“
“	三 橋 監 物	“	“
文 部 教 官 （富山大学教授 工学部）	上 野 亨	“	“
“	浅 岡 忠 知	“	“
文 部 教 官 （富山大学助教授 文理学部）	毛 利 勉	講師（富山大学教育学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
“	須 沼 吉 太 郎	“	“
“	近 藤 堅 二	“	“
文 部 教 官 （富山大学助教授 薬学部）	松 本 弘 一	“	“
文 部 教 官 （富山大学助教授 工学部）	四 谷 平 治	“	“
“	井 村 定 久	“	“
文 部 教 官 （富山大学教授 工学部）	加 藤 正	“	“
文 部 教 官 （附属中学校 教諭）	布 村 清 太 郎	“	“
“	水 井 謹 作	“	“
“	手 塚 義 三 郎	“	“
“	篁 ハ ル	“	“
文 部 教 官 （富山大学助教授 教育学部）	林 勝 次	講師（富山大学経済学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
文 部 教 官 （富山大学講師 教育学部）	金 子 基 之	“	“
“	有 沢 一 男	“	“
文 部 教 官 （富山大学教授 工学部）	南 日 実	講師（富山大学薬学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
文 部 教 官 （富山大学助教授 文理学部）	永 原 茂	講師（富山大学工学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
文 部 教 官 （富山大学助教授 教育学部）	松 為 周 従	“	“
“	沢 泉 重 夫	“	“
“	頭 川 徹 治	“	“
雇（文理学部 実験実習指導員）	藤 井 昭 二	講師（富山大学教育学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 8



文 部 教 官 (富山大学教授 経済学部)	小 寺 廉 吉	"	5. 10
文 部 教 官 (富山大学講師 文理学部)	藤 木 興 三	講師(富山大学教育学部)に併任する 任期は昭和32年 9月15日までとする	5. 15
文 部 教 官 (富山大学教授 教育学部)	佐 々 亮	富山大学教授(文理学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 15
"	玉 生 正 信	富山大学教授(文理学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 15
文 部 教 官 (富山大学教授 経済学部)	城 宝 正 治	"	"
"	渡 植 彦 太 郎	"	"
"	三 国 一 義	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授 教育学部)	林 三 雄	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 15
"	吉 田 博	"	"
"	黒 坂 富 治	"	"
"	白 井 芳 朗	"	"
"	林 勝 次	"	"
文 部 教 官 (富山大学助教授 経済学部)	菅 原 修	"	"
"	石 瀬 秀 治	"	"
"	植 村 元 覚	"	"
"	池 田 直 視	富山大学助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 15
文 部 教 官 (富山大学講師 教育学部)	飯 原 藤 一	富山大学講師(文理学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 15
"	田 中 久 雄	"	"
"	金 子 基 之	"	"
"	有 沢 一 男	"	"
文 部 教 官 (富山大学助手 教育学部)	志 甫 房 枝	富山大学助手(文理学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 15
文 部 教 官 (富山大学助教授 文理学部)	杉 本 新 平	富山大学助教授(教育学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 10
文 部 事 務 官 (富山大学附属図書館薬学部分館長) 併 文 部 教 官 (富山大学助教授 教育学部)	村 上 清 造	富山大学助教授(薬学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 15
文 部 教 官 (富山大学長)	石 原 寅 次 郎	富山大学教授(工学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	5. 1
文 部 教 官 (富山大学講師 教育学部)	飯 原 藤 一	富山大学講師(薬学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	5. 16
文 部 教 官 (富山大学助教授 薬学部)	松 本 弘 一	富山大学助教授(教育学部)の併任を解除する	4. 15
文 部 教 官 (富山大学助教授 教育学部)	頭 川 徹 治	富山大学助教授(工学部)の併任を解除する	"
	福 田 博	講師(富山大学教育学部)に採用する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 8
	斉 藤 現 常	講師(富山大学教育学部)に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 8
	太 田 正 行	"	"
	西 出 靖 夫	"	"
	小 柳 津 三 郎	"	"
	福 田 武	"	"
	萩 野 啓 之 助	"	"
	松 本 利 一	"	"

	鮎谷 嘉兵衛	〃	〃
	梅原 実太郎	〃	〃
	矢後 正之	〃	〃
	中 性 哲	講師（富山大学文理学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 15
	高見 国貞	〃	〃
	寛 三 郎	〃	〃
	楠 顕 秀	〃	〃
	堀田 俊夫	〃	〃
	松倉 博一	〃	〃
	永崎 徹	〃	〃
	岡野 禎二	〃	〃
	林 夫 門	〃	〃
	大谷 重彦	〃	〃
	尾崎 進	〃	〃
	沢井 宗隆	〃	4. 16
非常勤講師（富山大学文理学部）	林 夫 門	講師（富山大学教育学部）に採用する 任期は昭和32年 9月30日までとする	4. 15
〃	大谷 重彦	講師（富山大学薬学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
〃	尾崎 進	〃	〃
	大熊 信行	講師（富山大学経済学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
	米村 長敏	講師（富山大学薬学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
	日南田 義治	〃	〃
	堀岡 貞次郎	〃	〃
	水牧 忠介	講師（富山大学工学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 16
	近藤 正男	〃	〃
	宇津 一郎	〃	〃
	一宮 宗英	〃	〃
	浅地 実	〃	〃
	大沢 多美子	講師（富山大学教育学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	5. 10
	成瀬 清	講師（富山大学文理学部）に採用する 任期は昭和32年 9月30日までとする	6. 1
	石黒 国男	講師（富山大学教育学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	5. 1
	ヒュー, ブラウン	講師（富山大学文理学部）に採用する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 1
	片桐 道男	講師（富山大学工学部）に採用する 任期は昭和32年 6月30日までとする	6. 16
	塩谷 周三	講師（富山大学工学部）に採用する 任期は昭和32年10月15日までとする	〃
文部教官 （富山大学教授 工学部）	長元 亀久男	講師（福井大学工学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 20
文部教官 （富山大学教授 経済学部）	武石 勉	講師（福井大学学芸学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	6. 15
文部教官 （金沢大学教授 工学部）	京藤 陸重	講師（富山大学工学部）に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 20

文部教官 (金沢大学助教授 法文学部)	鈴木 寛	講師(富山大学教育学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	4. 25
文部教官 (新潟大学教授 農学部)	萩屋 薫	"	5. 1
文部教官 (金沢大学助教授 理学部)	江田 義計	講師(富山大学文理学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	"
文部教官 (神戸大学教授 経営学部)	久保田 音二郎	講師(富山大学経済学部)に併任する 任期は昭和33年 3月1日までとする	6. 16
文部教官 (金沢大学講師 理学部)	都島 文行	講師(富山大学文理学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	5. 15
文部教官 (東北大学教授 金属材料研究所)	大日方 一司	講師(富山大学工学部)に併任する 任期は昭和32年 7月15日までとする	6. 1
文部教官 (東京工業大学教授)	小林 英夫	講師(富山大学文理学部)に併任する 任期は昭和32年 9月30日までとする	6. 10
文部教官(お茶の水女子大学 助教授 文教育学部)	能登 志雄	講師(富山大学教育学部)に併任する 任期は昭和33年 3月31日までとする	6. 16

学内情報

昭和32年度内地研究員決定

本年度の内地研究員はかねて申請中のところ、次の通り決定された。このうち期間10ヶ月の山崎助教授は既に出向し、他の二人は期間6ヶ月で9月出向の予定である。

学部	官職	氏名	研究科目	研究題目	研究場所
文理学部	助教授	柿岡時正	文一 哲学	近世における人間の自由の問題	東京大学
経済学部	助教授	石瀬秀治	文一 社会	教育社会学における諸問題	京都大学
薬学部	助教授	山崎高応	医一 薬学	ピリチン誘導体の合成	東京大学

昭和32年度科学研究費等の採択決定

本年度科学研究費等の交付申請については、去る2月中に手続を終えたが、これに対し、本省から採択決定請通知が月、6月中に前後到達した。その内訳は次の通りである。

なお、科学研究費交付金(総合研究)については、本年度は不採択となり、科学研究費交付金(機関研究)及輸入、機械購入費補助金については、未だ決定を見ない。

科学研究費交付金(各個研究)

申請者47名、申請件数53件中採択を見たもの8名、件数8件でその採択となった者の氏名、研究課題、及び交付決定額は次の通りである。

文理学部

生物学教室 助手 堀 令司

課題 魚卵の受精及び付活に伴う電気的变化について

交付額 3万円

物理学教室 助教授 児島 毅

課題 マイクロ波による分子構造の研究について

交付額 4万円

独乙文学教室 助教授 岡崎 初雄

課題 ゲーテ晩年の抒情詩(Die Lyrik des alten Gaethe)

交付額 4万円

経済学部

経済学教室 助教授 柴田 裕

課題 経済発展と国際貿易

交付額 12万円

薬学部

製薬学教室 助教授 飯田 武夫

課題 米国コロラド産頁岩粗油に含まれる窒素化体の研究

交付額 20万円

工学部

金属工学教室 教授 室町 繁雄

課題 連続鑄造鑄塊に現われる周期的偏析

交付額 15万円

金属工学教室 助教授 池田 正夫

課題 還元蒸溜法による高純度金属マグネシウムの製造研究

交付額 4万円

機械工学教室 教授 長元 亀久男

課題 移動荷重をうける梁の応力変化の過程について

交付額 3万円

科学試験研究費補助金

申請5名、5件中採択となったものは次の1件である。

薬学部

薬物学教室 助教授 北川 晴雄

課題 クマリン誘導体の薬品的応用

交付額 30万円

昭和32年度科学教育研究室の開設

昭和32年度富山大学科学教育研究室は定時制による研究生8名を収容し、5月16日午後1時から本部において、その入室式を挙行了。詳細は次の通りである。

室長	石原 寅次郎
主事	岡本 基
学長	岡本 基
学生部長	岡本 基

学部	学科目	実験 非実験 の別	研 究 生			指 導 員			
			氏 名	職	研究 目 的	職	氏 名		
文理学部	日本史	非実験	宮島春夫	富山県	昭和4年 4月17日	国学院大学 文学部	郷土における近世語学の系譜について	教授	高瀬重雄
	化学	実験	市岡義望	"	昭和6年 9月8日	富山大学 文理学科	化学機器による析分操作法及びその応用	"	福井憲二
小計		非実験 1 実験 1	2名						2名
教育学部	教育学	非実験	仲田 清	富山県	昭和6年 8月21日	富山大学 第二中等教育科	教育のための各種標準検査と教育統計の研究	助教授	高野兼吉
	化学	実験	溝口 浄	"	昭和10年 1月27日	富山大学 第二中等教育科	南砺谷地区の飲料水の化学的検査並に陸江川流域の水質検査を定量的に行う	教授	山本健鷹
	"	"	角間賢二	"	昭和4年 12月28日	立命館大学 理工学部 工業化学科	化学教材の系統性についての考察	"	蛭川栄作
	生物学	"	山本 弘	"	昭和3年 10月27日	富山師範学校	砺波地方の下等生物	助教授	山淵利文
小計		非実験 1 実験 3	4名						4名
経済学部	人文地理	非実験	北林吉弘	富山県	昭和3年 12月5日	立正大学 地理学科	富山県の地誌学的研究	教授	小寺兼吉
	経済史	"	水島 茂	"	大正9年 9月15日	東京高等師範学校 中等教員養成所	加賀藩における経済政策	"	城宝正治
小計		非実験 2	2名						2名
合計		非実験 4 実験 4	8名						8名

なお、期間は次の通りである。

前期……5月16日から9月15日まで（8月中は休止）

後期……9月16日から12月15日まで

### 図書寄贈者に紺綬褒賞授与

本学文理学部の昭和29年度卒業生である守山一郎氏（広島県瀬戸田高等学校教諭）が元広島大学教授であつた亡父喜一郎氏愛蔵の洋書 400冊を本学に寄贈されたことは学报第9号で知らせた通りであるが、これに対し表彰方申請中のところ、このほど紺綬褒賞が授与された。

### 黒田講堂新営工事概況

大阪株式会社国光堂社長黒田善太郎氏の寄付による「黒田講堂」は本部施設課において設計され、4月26日の地鎮祭を皮切りに従来請負者松井建設株式会社の手により鋭意工事を進めていたが、7月20日過ぎ現在、玄関廻り 2階建の鉄筋コンクリート造りは、1階までのコンクリート打込み工事完了して目下 2階建廻りの型枠入れを段取中である。更にステージ廻りは目下型枠入れをなしつつあつて、これまた月末までにコンクリート打ち込みを了する筈である。上記により知らるる如く、同講堂は玄関廻り、集会室及びステージ廻りの3つの部分からなつていのであるが、その構造と規模は次の通りである。

- 玄関廻り 鉄筋コンクリート造 2階建
- 集会室 鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建
- ステージ廻り 鉄筋コンクリート造平屋建
- 建坪 251坪413
- 延坪 300坪382

本工事は 10月末に竣工の予定である。所要工事費は 2,480万円に上り、この全額が黒田氏の醸出になるものである。完成の暁は本大学の外容に象徴的な偉観を添えるであろう。

### 正門新営工事

黒田講堂と並行して松井建設の寄付による正門は兵衛時代からの旧門を撤去してそのあとに新設中である。その概要は正門巾 8米で、門柱材は県産の花崗石を用い、土塁の石垣はこれまた県産の青石使用の予定である。

### 海外出張中の佐口助教授歸還

西ドイツハンブルグ大学西アジア史研究の招請により同国へ留学を命ぜられ、昨年 5月19日羽田発SAS機で渡欧した、文理学部佐口透助教授は従来前記研究所の客員研究員としてシユラープ、ガバイン両教授と協同して中央アジア史とトルコ言語学の研究と演習に従事していたが、その間オーストリアのウイン、ドイツのベルリン、ミュンヘン、ハイデルベルヒ、ゲツチンゲン、ボン、ケルン、フランクフルト、マールブルグ、フランスのパリ、イギリスのロンドン、ケンブリッジ、さらにオランダ、ベルギーの諸地方を巡遊して主要な大学、研究所、博物館、美術館、などを視察見学し、著名な学者を歴訪してそのけいがい

するとともに、つとめて東洋史学の紹介や研究連絡の機会をもつた。かくて帰途はパナマ経由の西廻り海路をとり、アメリカのロスアンゼルスに立寄つて去る 4月17日予定を早めて帰還した。

### 昭和32年度卒業生就職状況

(昭和32.6.20現在)

学 部	学 科	卒業生数	進学 希望者	就職 希望者	就職状況		未定者
					決定者	比率	
文理学部	文 学 科	29	8	21	17	81.0	4
	理 学 科	16	1	15	14	93.3	1
	計	45	9	36	31	86.1	5
教育学部	第一中等教育科	50	0	50	42	84.0	8
	第二初等 "	36	0	36	36	100.0	0
	第一中等 "	19	3	16	14	87.5	2
	第二初等 "	73	6	68	43	63.2	25
	計	178	8	170	135	79.4	35
経済学部	経 済 学 科	128	5	123	119	96.7	4
薬学部	薬 学 科	70	11	59	59	100.0	0
工学部	電 気 工 学 科	30	3	27	27	100.0	0
	工業、化学科	22	2	20	20	100.0	0
	金属工学科	13	1	12	12	100.0	0
	同 機械専攻計	12	1	11	11	100.0	0
	計	77	7	70	70	100.0	0
合 計		498	41	458	414	90.4	44

### 北陸三大学学生総合体育大会

第9回北陸三大学学生総合体育大会は去る7月7日、折悪しく雨天に見舞われたが、一部を延期して決行された。成績は下記の通りであつた。

(陸上競技は 7月21日、サッカー、ラグビーは 6, 7, 8の 3日間)

記			
競技種目	団体1位	同2位	同3位
ソフトボール	富大	福大	—
バスケットボール (男)	金大	福大	富大
" (女)	富大	金大	—
バドミントン (男)	富大	金大	福大
" (女)	富大	福大	金大
卓 球 (男)	富大	金大	福大

卓球 (女)	金大	富大	福大
サッカー	引分け		
ラグビー (男)	金大	富大	福大
バレーボール (男)	金大	富大	福大
” (女)	金大	富大	福大
硬式庭球	引分け		
水泳	金大	富大	—
柔道	富大	金大	福大
剣道	金大	富大	福大
体操	金大	富大	福大
空手	エキシビジョンゲーム		
野球 (雨天のため 7月10日続行)			
	富大	金大	福大
陸上競技 (7月21日)			
	金大	富大	福大

### 富山大学第三回大学祭

第三回大学祭は、恒例により、富山大学自治会連合の主催によつて去る 5月25日映画会をもつて開幕、6月9日の音楽会をもつて盛会裡に幕を閉じた。

#### 記

- |   |              |                 |            |
|---|--------------|-----------------|------------|
| ① | 5.25         | 映画会、中国映画「秦香蓮」   |            |
|   |              | その他             | 於 富山市公会堂   |
| ② | 5.29         | 前夜祭             | 於 富山県庁前広場  |
| ③ | 5.30         | 演劇と講演の夕ダンス・パーティ | 於 富山市公会堂   |
| ④ | 5.31         | 体育競技大会          | 於 工 学 部    |
|   |              | 講演会             | 於 教 育 学 部  |
|   |              | 演 劇             | 於 富山市公会堂   |
|   |              |                 | 於 電 気 ビ ル  |
| ⑤ | 6. 1         | 弁論大会            | 於 文 理 学 部  |
|   |              | 演 劇             | 於 高岡市公会堂   |
|   |              | ダンス・パーティ        | 於 文 理 学 部  |
| ⑥ | 6. 8         | 創作舞踊発表会         | 於 富山市公会堂   |
| ⑦ | 6. 9         | 音 楽 会           | 於 富山市公会堂   |
| ⑧ | 5.25<br>5.27 | 展 示 会           | 於 富山市商工奨励館 |
| ⑨ | 6. 1<br>6. 4 | 教 養 教 室 (高校生対象) |            |

### レクリエーション便り

#### 鮎釣大会 (総合)

5月6日 (日) 射水郡下条川国道北方の第1、第2水門周辺の川べりで行われた。この日の参加者18名で釣上げの量においても、大物の点においても、工学部の井上浩氏が第1位となつた。

#### 庭球大会 (総合)

6月10日 (日) 正午より教育学部コートにおいて開かれトーナメント 7回ゲームで行われた。参加者11名で、佐藤好孝(教育)、吉田徳正(図書)組が 4戦連勝を以つて

優勝した。

#### 囲碁大会 (総合)

6月22日 (日) 10時から総曲輪銀嶺荘で行われた。参加者14名で、文理学部の白野明氏が優勝した。

#### 排球大会 (総合)

7月6日 (土) 9時半から教育学部体育館で部局を 4つの地区に分合し、総当りリーグ戦を以つて戦われたが、結果は 3戦全勝を以つて高岡地区 (工学部) が昨年引き続き優勝した。

#### 野球大会 (総合)

7月15日 (月) 10時から奥田グラウンドで行われたが、雨に祟られ 2回戦に入るや早くも中止のやむなきに至つた。翌日にもち越した試合はグラウンドも五福に変えて改めて 2回戦から開始し、優勝戦は午後行われたが、カツプは文理の占むるところとなつた。戦績は次の通りである。

蓮町地区 (文理)

奥田地区 (本部, 薬学)

五福地区 (教育, 経済, 図書)

高岡地区 (工学部)

9	}	優勝蓮町地区
—		
4		
0		
—	}	2
2		

#### 卓球大会 (総合)

7月19日 (金) 10時から教育学部体育学で発行されたが、薬学部が文理学部と接戦の末優勝した。

#### 富山地区公務員レクリエーション連盟の催

富山地区公務員レクリエーション連盟においては、本年度共同事業に排球(6月)、野球(7月)、ソフトボール(9月)卓球(11月)、麻雀(1月)、囲碁、将棋(2月)の6種目を予定しているが、このうち排球及野球の大会は次の如く行われた。

#### 排球大会

6月19日市営バレーコートにおいて行われたが、当日は快晴に恵まれて真夏を思わせる暑さのうちに熱戦が繰り返えされた。当大学は昨年の優勝チーム食糧事務所と対抗、2対零と、1回戦で早くも敗れ去つた。参加チームは 11で、優勝はやはり食糧事務所の連続占むるところとなつた。

#### 野球大会

7月12、13の両日当大学グラウンドを第1会場とし、奥田中学グラウンドを第2会場として、参加10チームの間で行われたが、両日とも曇天で時々強いにわか雨に見舞われた。第1日の如きは段々と強くなる雨の中、戦を展開したが、遂に 3回まで進むを得ずして、中止のやむなきに至つた。第2日は水溜りと化した第1会場を避けて、南部中学グラウンドに移し、残る試合を開始したが、前日19対7で税務署を破つた本大学チームはこの日裁判所と戦つて、7対3で敗れた。優勝は、昨年に引き続いて検察庁の獲得するところとなつた。

## 部 局 情 報

### 立山研究室の開設

文理学部立山研究室(浄土山頂)を下記期間開設することにした。

昭和32年 自 7月10日 37日間  
至 8月15日

### 文理学部教官の学位取得

文理学部助手(化学第一講座)山田昇は、さきに大阪大学へ論文(醋酸ビニル気相合成反応の研究)を提出中のところ、昭和32年6月14日附理学博士の学位を授与された。

なお、氏は6月20日附本学を退職し、帝国人絹岩国研究所へ転任した。

## ド イ ツ の 大 学

佐 口 透

私は1956年5月より57年3月まで中央アジア歴史の研究と交換教授のためハンブルグ大学西アジア史セミナーの客員として生活したが、この間の見聞に基きドイツの大学について若干記してみたい。尤も私が詳しく見た大学はハンブルグ、ゲツチンゲン、自由ベルリン、ミュンヘン、ボンなどの各大学、しかもその文学系統の研究室に限られていることを先ず御断りしておく。現在、全ドイツの総合大学(Universität)の数は約30で、工科・経済などの単科大学の数は約20を算する。一流の大きな大学は神学・文学・理学・医学・法学などの学部を持ち、他に経済・社会科学・工学などの学部を持つことがあるが、ドイツでは歴史的には文学・理学・法学などの基礎的学問をやる学部が主体で、経済や工学などの実用の学問は単科大学でやることになつていた。ドイツで最古の大学は1386年創立のハイデルベルヒ大学である。学部長はデカンと呼ばれ、学長はレクトルと呼ばれる。研究室はゼミナール又はインステイトウートと呼ばれる。我が国の一流大学の研究室と同じような性格を持つているが、研究室の独立性が強く小型の研究所の如き性格を示している。教授団について言えば一つの学問体系(講座)に対し教授一人という原則で、制度上これを正教授という。この講座を分担する教授は員外教授と呼ばれるが、これは日本の大学のいわゆる助教授とはやや異つてゐる。正教授はその研究室のダイレクトル即ち、主任教授としての特別な地位を与えられる。ドイツの大学では学部長や学長よりも講座担当又は研究室の主任教授たるものが学者としての最高の地位である。員外教授が特殊な狭い学問分野の権威であるのに対し、正教授は専門の特殊研究はもちろん、専門の周辺に、わたつても広い学殖と識見を兼ね備えた巾の広い人であることが要請される。他に講座

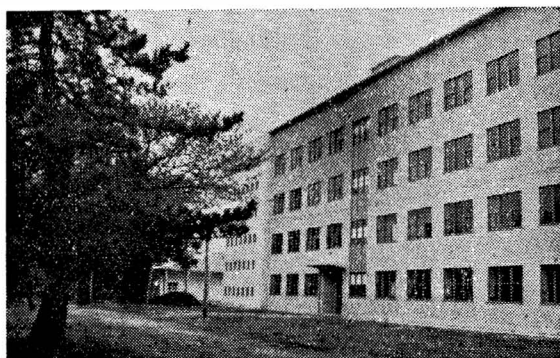
を持たぬが講義を担当しているドツェント(講師)なる教員があり、ドツェントも長い間勤務すると教授の称号を与えられることがある。大学の教授となるには先ずドクトルの学位を有しておらねばならず、次にハピリタチオンという大学教員資格論文を提出して認定されねばならず、次いで講師となり、或いは欠員あれば招聘されて教授の地位に就く。ドイツでは国立、私立の大学はなく、すべて州立即ち公立で、日本の大阪市立大とか東京都立大がこれに似ている。ハンブルグ大学では68才が停年で、十分学力ある人が長く教授の地位に就いて安定しているが、その反面、新陳代謝が乏しく、学問の発達妨害になる場合も多い。アメリカの大学のように教授の地位も一年とか二年の契約で、業績を挙げねば解雇されると正反対だが、自然科学とか応用科学の分野には金がないのと如上の大学組織のためドイツがアメリカに凌駕されつつあるのは事実である。尤もドイツでも学問的能力と敬老とは別物で主任教授が最も若い人であつてもなんら不思議ではなく年令順などという考え方は全くない。ドイツではギムナジウム(高等学校)の卒業試験に合格すればどこの大学へでも登録して入学できるので大学入試は原則として存しない。また各地の大学へ転ずることも自由であり、いくつかの大学で得た単位は通算されて有効である。大たい八学期(即ち四ケ年)修学するとドクトル論文を提出する資格が生ずる。このような学生はカンデイダト(ドクトル候補学生)と呼ばれるが、ドクトルとなるにはやはり数年はかかる。学期(ゼメスタ)は夏学期(5月~7月)、冬学期(11月~2月)の二学期で8,9,10と3,4の各月は休暇で、他にクリスマス休暇が一週間がある。各大学はそれぞれよく整備された図書館を有し、貸出しに重点がおかれ、また他の大学の図書館から必要の図書を送附させて読むことができるのは便利である。大学は州立だからその図書館も一般人に公開されている点が日本と違う。カードはよく整備され、館員は親切で知識が広い点では我が国の比ではない。学生の厚生施設もよく発達し、ハンブルグ大学では学生の自治組織によつて学生会館が運営され、その中にメンザ(学生食堂)、喫茶室、レストラン、ダンス・音楽バー、新聞雑誌室、書店、集会室などがあり、さらには内職斡旋、貸間紹介、医療が行われる。学生会館の手によりその他諸種の娯楽的催物も行われ、また外国学生部があるなどもヨーロッパならではの感がする。自由ベルリン大学でも、学生会館はよく整備され、ドイツの大学が学生の厚生施設に努力している様子がよく理解できた。日本とは違い学生服などなく普通の服であり、スポーツとしてはフットボール、ヨツト、カヌーなど盛んで野球はドイツにはない。最後に附言するが第二次大戦後もドイツはアメリカの6,3制を受け入れず伝統的な学制を固持した。即ち義務教育として9年生のフォルクスシューレがあり、ここの4年修了者は8~9年制のギムナジウム(高校)へ進む。ギムナジウムには文科系と理

科系の二種類があり、ここの修了者はアビトルと称せられ  
 大学入学の資格を持つ。他に商業・工業の高校もある。少  
 くとも大学に入る者は学問をやるという立場に立っている  
 が、ドイツの大学は大たい日本の旧制大学に近い。大学に  
 は一般教養課程などはもちろんない。教育学部はないが別  
 の教育研究所で教員志望者は日本などよりさらに徹底した  
 職業教育をうけている。

### 経済学部及び附属図書館の校舎竣工

富山大学経済学部及び附属図書館の第一期工事である鉄  
 筋コンクリート四階建の校舎は昭和30年12月に完成し、引  
 き続き第二期工事である木造二階建の校舎が昭和32年3月  
 に完成した。

本工事は全国稀な所在県の資金のみによるもので、内部  
 設備費も含めての総経費1億4千5百万円である。新校舎の  
 落成式は4月4日寄付者富山県主催のもとに新校舎におい  
 て地方の名士多数を招待し盛大に挙行された。



(図書館正面)

これとは別に富山大学としては5月25日経済学部が午前  
 9時30分より教職員、学生合同の学部完成祝賀会を、また  
 大学本部主催の経済学部並びに附属図書館完成祝賀会が午  
 前11時より、更に午後3時より経済学部同窓会主催の祝賀  
 会が夫々新校舎において開催された。かくて昭和29年より  
 3ヶ年計画にて施工された白雲の殿堂が大学集中地域であ  
 る五福に富山大学の代表的な建物としてその偉容を誇るこ  
 ととなつたのである。

なお授業は4月11日の新学期より新校舎で開始されてお  
 る。

校舎の規模構造の概要は下記の通り。

研究室及図書館……鉄筋コンクリート建	四階	901坪540
書庫……鉄筋コンクリート建	六階	210坪354
図書館(閲覧室その他)木造二階建		289坪674
講義室……木造平屋建		307坪316
演習室……木造二階建		215坪622
渡廊下……木造平屋建		26坪131
合 計 木 造		838坪748
鉄筋コンクリート		1111坪894

### 主 要 日 誌

- 3. 8 事務協議会
- 3. 15 第7回の評議会
- 3. 19 富山大学設置期成同盟会から付属図書館並びに  
経済学部校舎の寄付を受け、月末までにそれぞ  
れ移転を完了
- 3. 20 第五回卒業式並びに第五回修了式挙行
- 3. 23-24 昭和32年度入学者選抜試験実施
- 3. 25 事務協議会
- 3. 30 第8回評議会
- 3. 31 昭和32年度入学者選抜試験合格者発表
- 4. 10 昭和32年度入学式挙行
- 4. 11-12 入学生身体検査実施
- 4. 13 補導協議会
- 4. 24 次期教育学部長候補者選挙執行
- 4. 27 事務協議会
- 5. 7 補導協議会  
奨学生選考委員会
- 5. 9 持廻り評議会
- 5. 13 学部長会議
- 5. 14-30 定期レントゲン間接撮影実施
- 5. 15 富山大学学生自治会連合主催第3回大学祭開幕  
6月9日までに亙り多彩な行事が行なわれた
- 5. 16 事務協議会  
富山大学科学教育研究室入室挙行
- 5. 21 認定講習委員会
- 5. 24 補導協議会  
奨学生選考委員会
- 5. 25 経済学部独立移転並びに付属図書館移転祝賀会  
挙行
- 5. 30 第1回評議会
- 5. 31 事務協議会
- 6. 3 “
- 6. 7 “
- 6. 10 学部長会議
- 6. 15 補導協議会  
授業料減免選考委員会
- 6. 21 第2回評議会
- 6. 26-29 文部省会計実施監査
- 7. 6-21 第9回北陸三大学総合体育大会開催  
(主管富山大学)
- 7. 9 職業補導担当者会
- 7. 10 8月20日まで立山研究室開設
- 7. 11 持廻り評議会
- 7. 17 次期文理学部長候補者選挙執行
- 7. 18 事務協議会
- 7. 19 職業補導担当者会
- 7. 20 補導協議会  
奨学生選考委員会
- 7. 23 次期薬学部長候補者選挙執行
- 7. 25 文部省委嘱昭和32年度学校図書館司書教諭講習  
会開講式挙行
- 7. 27 第3回評議会